

平成30年度 事業報告書

日本リザルツ平成31年2月8日作成



01 JANUARY

2018年01月03日

【ニュース】 トランプ米大統領、パレスチナ支援の打ち切り警告

日本リザルツは国連パレスチナ難民救済事業機関(UNRWA)のキャンペーン事務局をしています。
新年早々、心配なニュースが入ってきました。

◎トランプ米大統領、パレスチナ支援の打ち切り警告

[国連 2日 ロイター] - トランプ米大統領は、パレスチナがイスラエルとの「和平交渉に前向きでない」ことを理由に、パレスチナ支援を打ち切る可能性があるかと警告した。

トランプ大統領はツイッターに、米国はパレスチナに対して「年間数億ドルもの支援を行っているが、何の感謝も敬意も示されない。パレスチナはイスラエルとの和平交渉を望んではいない。それなのになぜ、米国がパレスチナを支援する必要があるのだろうか」などと書き込んだ。これに先立ちヘイリー米国連大使は、パレスチナ難民に人道支援を行う国連機関への資金拠出を停止する方針を発表。ヘイリー大使は「パレスチナが交渉復帰に同意するまでは、資金拠出はしないというのが、大統領の意向だ」と説明した。国連パレスチナ難民救済事業機関(UNRWA)のウェブサイトによると、米国は同機関への最大の資金拠出国。トランプ米大統領が先月(12月)、エルサレムをイスラエルの首都として公式に認定したことを受けて、米国とパレスチナの関係は悪化している。

今後の展開が気になります…。

2018年01月04日

気づき

放課後、近隣小学校の児童が相談室へ来室することは、度々、ブログに取り上げているので、皆様ご存じかと思います。相談室の中では児童が、どこに絵を描いても、どれだけ騒いでも私は注意も指摘もしませんし、叱ることもありません。普段の会話の中で、児童の『気づき』を促していきます。これは、カウンセリングの応用編ですね。注意しなくても、指摘しなくても、叱らなくても、会話の中での『気づき』は、児童の心にスッと定着し、ルールとなり、自然と守ってくれるようになります。



【例えば】

書棚に絵を描いたら⇒描いた本人が消します。

水性ペンを使って描くので、アルコールですんなりと消えます。それだけです。

綺麗にしたことで、児童自身に達成感が芽生えます。

昂奮して大声を上げたなら⇒青葉ビルは公共の場であることを、静かにゆっくりと伝えます。すると、落ち着いた声にスーッと戻ってきます。それだけです。理由を伝えることにより、児童の考える心を伸ばしていきます。

この様に、大人の『こうあるべき』を押し付けず、安全・安心な児童の心の距離を保ちながら会話することによって、児童の自尊心を傷つけず、自己肯定感の向上につなげていきます。これは、児童だけに限った手法ではありません。大人にも同じことがいえます。私にとって放課後の相談室は、児童とのコミュニケーションを通じて、人としてのコミュニケーションを学ばせていただく、貴重な時間になっています。

靴送付の礼状

皆様から送っていただいた靴は本日も到着しています。本当にありがたく御礼申し上げます。靴を送っていただいた皆様にはお礼状を送っています。こちらボランティアの藤崎さんが中心となって手書きで書いてくださっています。今までは写真付きのハガキにお礼を書いて送っていましたが、本日からケニアの写真を印刷した一筆箋にお礼を書いて送ることになりました。写真の種類はいくつかありますので、どの写真のお礼状が届くかは受け取ってからの楽しみにしてくださいませ。



釜石市民ホール TETTO

2017年12月8日、釜石市民ホール『TETTO(テット)』が開館しました(2018年4月、グランドオープン)。

2015年初春、釜石の文化と芸術の中心だった釜石市民文化会館が、東日本大震災による被災のため、解体されました。2011年3月のあの日から、色々な方々が釜石の文化と芸術の火を絶やすまいと、工夫を凝らしながら活動されてきたとのこと。その姿に、力を受け取った市民の方々も少なくないとお聞きします。みなさんの想いが詰まった釜石市民ホール

『TETTO(テット)』。名付け親は釜石市在住の小学生。『TETTO(テット)』には、

釜石と鉄の深いつながりを表した『鉄都』と、釜石市民ホールと釜石情報交流センターをつなぐ広場上部のガラスから建物につながる『屋根』が建築の特徴でもあることから、イタリア語で屋根を意味する『tetto』の2つの意味が込められているとのこと。釜石に素敵な名所がまた一つ生まれました。



[ニュース] 箱根駅伝で青山学院が4連覇!

第94回東京箱根間往復大学駅伝最終日は3日、神奈川県箱根町から東京・大手町までの5区間、109.6キロに21チームが参加して復路が行われ、往路2位の青学大が4年連続4度目の総合優勝を果たしました。

ちなみに青山学院大学の学長は三木義一氏で、2010年には民主党政権下で政府税制調査会専門家委員に就任しました。また民主党税制改正プロジェクトチームによる有識者ヒアリングに座長として参加されました。社会保障と税の共通番号制度などについて政策提言をされています。三木先生は日本リザルツの大応援団で、理事会などにもよく参加して下さっています!新年早々うれしいニュースですね!



2018年01月07日

[ニュース] 米国がパレスチナ支援凍結か 国連機関への拠出金

日本リザルツは国連パレスチナ難民救済事業機関(UNRWA)のキャンペーン事務局をしています。今日は衝撃ニュースが入ってきました。

◎米国がパレスチナ支援凍結か 国連機関への拠出金

米ニュースサイトのアクシオスは5日、トランプ米政権が国連パレスチナ難民救済事業機関(UNRWA)への1億2500万ドル(約140億円)の拠出を凍結したと伝えた。外交筋の話としている。ロイター通信によると、米国務省当局者は「今月中旬までに最終決定する」として確定事項ではないとの考えを示した。トランプ大統領は2日のツイッターでパレスチナ支援について「感謝も尊敬もされていない。なぜこれほど巨額の支出をするべきなのか」と述べ、支援停止や縮小の可能性を示唆。ヘイリー米国連大使もパレスチナが和平交渉に応じなければ、資金拠出停止を検討すると述べていた。

アクシオスによると、凍結されたのは米国の年間拠出額の3分の1に相当し、今月1日までに支払われる予定だった。米国はUNRWAへの最大の資金拠出国で、凍結が事実なら支援活動への支障は必至だ。(共同)今後の展開が気になるところです…

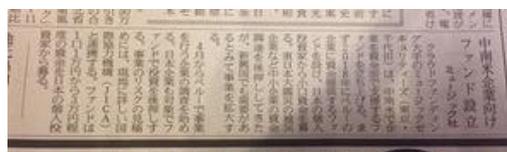
2018年01月08日

[ニュース] ミュージック社、中南米で企業支援

本日の日本経済新聞朝刊に日本リザルツがお世話になっているミュージックセキュリティーズ社の記事が載っていました。

◎ミュージック社、中南米で企業支援ファンド

クラウドファンディング大手のミュージックセキュリティーズ(東京・千代田)は、中南米で企業を資金面で支援するファンドを



立ち上げる。まず 2018 年にペルーの企業に資金提供するファンドを設け、日本の個人投資家から小口資金を募る。

今後の展開が楽しみです！

2018 年 01 月 09 日

発達障害

発達障害とは『発達障害者支援法(第 2 条、2004 年制定)』において、『自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害その他これに類する脳機能の障害であってその症状が通常低年齢において発現するものとして法令で定めるものをいう。』と定義されています。1980 年、WHO(世界保健機関)の『国際障害分類試案(ICIDH)』以来、改定を重ね、2013 年、『DSM-5(精神疾患の診断・統計マニュアル第 5 版)』において、『広汎性発達障害(PDD)』が『自閉症スペクトラム(ASD)』の診断名と変わりました。『広汎性発達障害(PDD)』の中には、自閉症やアスペルガー症候群、特定不能の広汎性発達障害(PDD-NOS)等が含まれ、細かく分類されていましたが、『DSM-5(精神疾患の診断・統計マニュアル第 5 版)』では分類せず、『自閉症スペクトラム(ASD)』という大きな 1 つの診断名に統合されています。

2015 年、文部科学省が、公立の小学校、中学校及び中等教育学校(前期課程)を対象として実施した『通級による指導実施状況調査(2016 年公表)』の結果では、通級による指導を受けている発達障害(自閉症、学習障害及び注意欠陥多動性障害)のある児童生徒数は、2015 年時点、4 万 1,986 人(自閉症 1 万 4,189 人、学習障害 1 万 3,188 人、注意欠陥多動性障害 1 万 4,609 人)と報告されています。

前記の数字は、公立の小学校、中学校及び中等教育学校(前期課程)のみですので、他環境における児童を加えた児童全体で見ると、はるかに大きな数字となることは、容易に想像されます。

発達障害に関する環境は日々変化し、大きな社会的要素の一つとなっています。当相談室へ相談されるケースにおいても、『自閉症スペクトラム(ASD)』と診断される児童は少なくありません。そして、その児童一人一人が『社会での生きづらさ』を抱え、独りで悩んでいるケースが多く見受けられます。発達障害を抱えている児童は、『(客観的視点での)困った子』ではなく、『(児童の視点での)困っている子』なのです。その困り感に対し、如何に寄り添うことができるか、また、教育、福祉、医療等の多機関多職種と連携しながら、如何に地域全体で見守ることができるのか。今後も真摯に対応していくべき、青葉通りこどもの相談室のテーマの一つとなります。

新規施設見学

釜石市上中島町に建設された『上中島こども園』『すくすく親子教室』『上中島児童館』

上記、三施設を見学(開所前)してまいりました。

『上中島こども園』は、幼保連携型認定こども園であり、幼児教育・保育を一体的に行う、幼稚園と保育所の機能を併せ持つ施設です。『すくすく親子教室』は、発達に心配のある子どもの療育を行う、障害児通所支援事業所です。『上中島児童館』は、遊びや生活の場を提供する、学童保育を兼ねた児童厚生施設です。



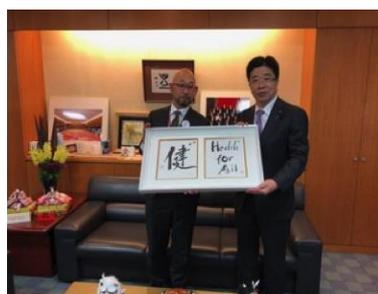
機能の異なる三施設が、同敷地内に一体整備化されることで、地域の多様な子育てに対して、包括的な保育環境の創出および連続した連携が可能になるとのことです。また、人々の復興や子育て中の女性の就労にも目を向けた環境整備となっており、隣接する復興公営住宅を含む地域コミュニティーを形成する場所としての機能も期待されるそうです。近年、釜石において増加傾向にある保育ニーズおよび保護者の就業形態に対する保育環境整備が成されたということは、地域の復興が新たなフェーズに移行している印象を強く受けました。この様に、釜石の子ども達を取り巻く保育環境は、少しずつ整備されてきてはいますが、未だ万全とは言えず、復興は続けております。今後も皆様のご支援、ご協力のほど宜しくお願いいたします。

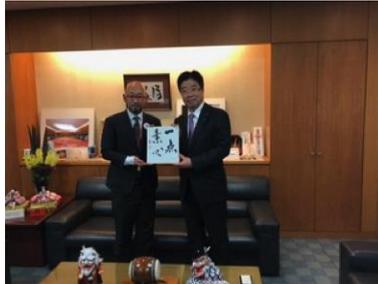
2018年01月10日

加藤厚生労働大臣表敬

昨日14時、フランス在住の著名な日本人書道家であるマーヤ・ワカスギ氏が、加藤厚生労働大臣を表敬され、「健」と「Health for All」と題する書を贈答されました。また、加藤大臣表敬に続き、高木厚生労働副大臣にお会いになりました。

今回の訪問は、ワカスギ氏が、昨年12月に東京で開催されたUHCフォーラムで書の実演をされたことによるご縁で実現したものです。同フォーラム出席のWHOテドロス事務局長はこの実演に感激されたようです。ワカスギ氏は、加藤大臣に、「書」という伝統的な日本文化の世界への普及と世界の人々が健康な生活を送ることの重要性を訴えられました。本年のダボス会議においても実演をされるとのことです。私たちも、こうした方々の取組みを応援できればと思います。





2018年01月11日

ハマユリと長坂さん

白須代表が持ってきた釜石の花ハマユリを生まれて初めて活けた長坂さん。

もうすぐケニアに向けて出発します。



2018年01月12日

JAPANESE AIUEO

In many ways, being disgraced because of your association with corruption is one of the worst things that can happen to yourself and your career. In Japanese wisdom, one should observe being “Ogorazu” loosely translated to being modest. A modest person ensures that his legacy is clean, and a good example to other young leaders who look up to him/her. In that light, it becomes important to “Ekohiiki-sezu” which means “Do not show favoritism”. When one avoids favoritism, corruption cannot get into the picture. Leaders in powerful positions may be tempted to use their power to influence many benefits to them. But Japanese AIUEO wisdom advises that caution must be taken, and it has to be done in such a way that integrity remains outstanding. Just as is the case for leaders, one must be ready to seek guidance, accept the mistake, and correct it immediately. There is no wisdom in acting big (Ibarazu) just because you are in a position of power. Always, we stand guided that following the principles of AIUEO remains the truest and most fulfilling way to achieve good outcomes in life.

カンゲミ検査所 1月11日

カンゲミ検査所の現地確認をしてきました。まずは事務所で、リザルツナイロビメンバーでミーティングを行い、現状把握を認識しました。カンゲミ検査所の現場確認を行い、検査所のスタッフとミーティングを行い、工事のスケジュールを確定しました。電気ケーブルの確認と検査器具の搬送・機械器具設置方法を確認し、現地の重機・機械器具設置業者との打合せをする為の確認を行いました。



いのちのアサガオ

朝、霞が関の魔法使いどーらが事務所を整理していると、こんな懐かしいものが出てきました！



朝日新聞でも取り上げられた「命のアサガオ」です。

◎「命のアサガオ」仮設で大輪 白血病の男児から種継ぐ

岩手県釜石市の仮設住宅で、白血病で亡くなった子が育てたアサガオの「子孫」たちが、季節外れの花を咲かせている。アサガオは、新潟県中条町(現胎内市)で1993年、白血病の丹後光祐(こうすけ)君(当時7)が3カ月だけ通った小学校で育てていたが、花を見ることなく亡くなった。母のまみこさん(53)がそれを引き取って増やし、「命の尊さを知ってほしい」と、「命のアサガオ」と名付けて種を全国に配っている。今回の震災では岩手県内の被災者を支援するNGO「日本リザルツ」などが仲介し、被災者らに提供された。各地の仮設住宅で種がまかれたのは、通常より3カ月ほど遅い6~7月だったが、住民に育てられ、今月、ネットを伝って伸びたアサガオが紫色の大輪の花を咲かせている。118世帯が暮らす釜石市中妻町の仮設住宅では、夫や母

親と住む女性(67)は「由来を聞くと希望がわく。夏場は日よけになってよかった。来年も大切に育てたい」と話していた。

ちなみに今日は1月12日。ハイチ地震から丸8年が経過しました。

2018年01月13日

朝日新聞の「声」欄

本日の朝日新聞朝刊の「声」欄に日本リザルツのスタッフ、長坂の投稿記事が掲載されました。

「ミャンマーのロヒンギャ難民の感染症を抑止する活動に日本人医師も参加しているが、この問題に対し、ミャンマー政府が向き合うことが求められる」という内容です。難民問題が解決に向かい、皆が平和に暮らせる世の中になって欲しいものです。



2018年01月14日

【速報】 どっかい欧州金融取引税死なず：ドイツ大連立交渉合意に金融取引税も

大連立に向け協議が続いていたドイツのメルケル首相側(CDU・CSU)とシュルツ党首側(SPD)とがようやく12日に「大連立政権継続のため政権協定交渉入りを目指す方針で合意」(13日付毎日新聞)しました。その合意内容のハイライトがブルームバーグ電子版に載っていますので紹介します。米系インターネット企業への「公正な課税」を求めることや、実質的な欧州金融取引税(国際連帯税の一種)の導入を目指すこと等、実に興味あり、ですね。



●Agreement Highlights

- Pledges not to increase overall tax burden on citizens
(市民全体の税負担を増やさないことを約束する)
- Prepared to contribute more to EU budget
(EUの予算にもっと貢献することを準備する)
- Calls for “fair taxation” for Internet companies such as Google, Apple and Amazon
(グーグル、アップル、アマゾンなどのインターネット企業への「公正な課税」を求める)
- Targets introduction of substantial European financial transaction tax
(実質的な欧州金融取引税の導入を目指す)
- Wants building of nationwide Gigabit network by 2025

(2025年までに全国規模のギガビットネットワークの構築を望む)

• May increase clean power share to 65% from 38%

(クリーンな電力シェアを38%から65%に増やすことができる)

• Plans to subsidize construction of 1.5 million new apartments

(150万戸の新規アパート建設を補助する計画を立てる)

とはいえ、SPD(社民党)内では、党青年部や左派の大連立反対論が強く、今後政権協定交渉入りが承認されるか、されたとしても実際政権参加するかどうか、まだまだ紆余曲折がありそうな気配です。

2018年01月15日

河野外相、ロヒンギャへの人道支援に約2千万ドルの支援を表明

河野外相は、日本時間1月12日、ミャンマーの首都ネピドーで、アウンサンスーチー国家顧問兼外相と会談し、攻撃を逃れてバングラデシュに避難しているイスラム教徒少数民族ロヒンギャ族の迫害問題に係る懸念を伝え、祖国への帰還の確保を求めるとともに、住宅提供の重要性を指摘されました。また、ロヒンギャの人道状況の改善に向けて国際機関を通じて約2千万ドルの支援を実施すると表明されました。

更に、河野外相は、翌13日午後(日本時間)、ミャンマー軍のヘリコプターでミャンマー西部ラカイン州を外国の閣僚として初めて訪問し、ロヒンギャの帰還に向けた取り組みを視察され、記者団に対して、「燃えて無くなった村や家がかかなりあり、相当深刻。生活環境を整えるのが厳しい状況であり、日本政府としてもしっかりコミュニティ間の融和が醸成できる様支援していきたい」、と述べられました。ロヒンギャ問題の現場を直接視察された河野外相の行動力に敬意を表するとともに、今回のご訪問を契機に、ロヒンギャ問題が解決の方向に向かうことを心から祈念しています。

G7カナダ市民社会の動き

2018年のG7サミットはカナダで開かれます。先日、主要議題が公表されました。が…なんとびっくり！主要議題に保健が入っていないのです！！

絶体絶命の危機を何とかせねば！ということで、保健ワーキンググループが、リザルツ・カナダなどを中心に立ち上がりました。すでにカナダのトルドー首相へ要請文を提出するなど働きかけを始めています。また、ポジションペーパーを作るための作業を開始するとのことで、日本の市民団体にも呼びかけが来ています。

今後の展開が気になるところです。

ハマユリが咲きました。

先日、長坂さんがオフィスに活けたハマユリがきれいに咲きました。外の寒さがうその様にオフィスに一足早く春が訪れた様です。



2018年01月16日

カンゲミ CHV トレーニング グループ No2

カンゲミ CHV トレーニング グループ No2 H30.1.16~1.18 が始まりました。はじめに、岩田さんが自己紹介をします。英語が堪能で、CHV メンバー皆さんが注目していました。



新メンバーの自己紹介も終わり、講師リリアンのトレーニングに入ります。皆さん真剣に話を聞いていました。



ランチタイムで外に出たら、隣の小学校の子どもたちが給食を貰う為に並んでいました。



2018年01月17日

G7を振り返る

今年のG7はカナダのケベックで開かれます。先日、主要議題に保健分野が入っていない！という超衝撃ニュースをお伝えさせていただきました。

実は G7 における保健分野への取り組みは日本がリーダーシップを取っているのをご存知でしょうか？ その

歴史は1979年まで遡ります。1979年に初めて日本がG6サミットをホストしました。その時に初めて、「ヘルス」という言葉が首脳宣言に盛り込まれたのです。ちなみに、霞が関の魔法使いどーらは、このころは、まだ「主婦さん」をしていました。その後2000年の九州沖縄サミットで、初めて「グローバルファンド」という言葉が出ます。このG8サミットでは初めて、感染症対策を主要議題として取り上げました。これが「世界エイズ・結核・マalaria対策基金(グローバルファンド)」の設立契機になります。日本すごいですね！そして、2008年、G8北海道洞爺湖サミットでは、保健分野を主要議題にし、感染症対策や母子保健を含め「保健システム強化」の包括的取り組みに合意しました。2016年のG7伊勢志摩サミットでは、サミット初！UHCを主要テーマにしたほか、今深刻な問題となっている薬剤耐性問題(AMR)も取り上げました。

今年のG7サミットも日本のリーダーシップで、是非とも、保健分野を主要議題として扱っていただきたいものです…

2ND BATCH OF CHV TRAINING STARTS IN EARNEST

The training of the second batch of the Kangemi CHVs started just yesterday.

To assess the level of skills gained, I designed a pre-test exam and a post-test exam. The two exams will be used to know if the trainees have understood the knowledge that is being taught.

Those who shall get below average will have to read the material more and do the test again so that they have a much more understanding of TB work.

The exam will have to be done by all the CHVs to be trained.



民間税調、2018年度税制改正に対する意見書 国際連帯税も言及

民間税制調査会(共同代表、三木義一青山学院大学学長)は毎年度政府の税制改正に対して提言や意見書を出していますが、2018年度についても1月15日に意見書を提出しました。その意見書についての記事が、本日(17日)の日本経済新聞に掲載されました。

日経新聞の記事と、意見書に書かれている「国際観光旅客税」(いわゆる出国税)についての見解と提言(国際連帯税を!)について紹介します。

【日経新聞】高所得の会社員増税「明確な根拠欠く」 民間税調が苦言

大学教授や弁護士らが税のあり方を議論する「民間税制調査会」(共同代表、三木義一青山学院大学学長)は2018年度税制改正大綱に対する見解をまとめた。年収850万円超の所得がある会社員を増税する一方、自営業者らが減税になる所得税改革については「明確な根拠や基本的な戦略を欠く」と指摘した。

民間税調は「増税の必要性を政治家は責任を持って主張すべきだ」と指摘。昨年の衆議院選挙前に増税案が示されなかった…

⇒《田中注》日経新聞のタイトルの付け方はちょっと恣意的ではないか。「高所得の会社員増税について明確な根拠を欠いている」と民間税調は主張しているのではなく、フリーランス…など非正規労働者と給与所得者との間に税負担の不公平があるとして給与所得控除を減らす(つまり、後者の増税)という根拠があやふやであり、そもそも「少子高齢化が進む中で財源を確保しながら公平・公正な課税を目指す観点から、所得課税やその控除をどのように見直すか」という基本的な戦略を欠いていると主張しているのだから。

…前略

(1)国際観光旅客税

2018 年度改正で、久しぶりに新税が導入される。国際観光旅客税(仮称) と森林環境税(仮称)がそれである。導入に当たりもっともらしい説明がなされているが、これまでの目的税と同様に無駄遣いに終わる可能性が高い。

まず、国際観光旅客税であるが、いわゆる「出国税」で、日本人、外国人を問わず、日本を出国する人に、一律千円を課税し、主として日本の観光産業振興のために使用するという。年間、日本人が1710万人、外国人が2400万人出国するので、税収はおよそ年間400億円となる。実は、この種の税が、我が国では、2009年頃から、国際連帯税、もしくは国際航空券税として提唱されてきた。今回の税との明確な違いは、支出目的が国際連帯のためであり、国境を超える地球規模課題の解決に税収を充当する新たな国際貢献の仕組みとして構想されていた。すでにフランスなど 12 カ国で実施されている。この税が提唱されたとき、業界は大反対をし、今回は、観光施設充実のために使うので了解したようであるが、目先の利益にこだわりすぎている。なお、旅行者はサービスを消費して税金を納めており、これに上乗せして税金を徴収する根拠は薄いともいえるし、他方で、国内旅行には消費税がかかるのに、国際線となると消費税もかからないのは明らかに不合理だともいえる。その意味で、この分野に課税することは否定しないが、その支出を、国境を超える人に負担を求める以上、支出先を国際連帯に向けるべきことを提言しておきたい。

なお、観光振興のための施策は、Wi-Fi など通信の利用環境の整備、案内板等の外国語表記、宿泊施設のバリアフリー化支援、さらには新たな観光資源の開発など、その担い手は、主に自治体であろう。そうであれば、その財源も、できる限り地方税で賄うことが望ましく、宿泊税の創設や入湯税の超過課税などが選択肢となる得ることも指摘しておきたい。

…後略

海が戻ってこなくなった日

私が感銘を受けた一冊の絵本。

はまべのドラゴン『エリック』

エリックは毎日毎日、美しい海を眺めては、穏やかに、幸せに暮らしていました。ある日、海は引いてしまったまま、二度と戻って来なくなってしまう。大好きな海をみるができなくなってしまったエリック…。

大事なひとや大切なものが目の前からいなくなってしまうとき
どうしたら立ち直ることができるのでしょうか。

この絵本はそんなヒントをくれる『心の立ち直り』の物語です。



文字で書き連ねたり言葉で伝えたりするより、子どもには絵で感じ、受け容れてもらえることが多くあります。一冊の絵本で、子どもを癒すことができます。絵本のチカラは、素敵な魅力に満ちています。

2018年01月19日

スーパーボランティアさん！

今日も霞ヶ関のよろず屋は大忙し。職員、スタッフが、魔法使いのどーらから降ってくる業務に追われていた午後2時すぎのこと...。「こんにちは」と聞き覚えのある声がしました。ボランティアの藤崎さんです。ハガキ書きを終わらせたい！と出勤日ではない日にも関わらず、お手伝いをしに来てくださったのです。藤崎さんのボランティア精神に職員一同、感動しきり。会計の篠田は、目をくりくりさせて驚いていました。

スーパーボランティアさんに感謝ですね！

インドのトイレ革命に関する意見交換会

1月18日午後3時から4時過ぎまで、内閣官房、外務省、厚生労働省、環境省の幹部、有識者として東京大学医学部教授、国連機関(UNICEF)、衛生機器や計測器などの民間企業に加え、NGOであるWater Aid、日本リザルツ、ビル&メリンダ・ゲイツ財団という多様なメンバー(パートナー)が、日本リザルツ会議室に参集し、日本のSDG戦略の一つでもある、インドのトイレ革命に関する意見交換会が行われました。会議の概要は下記のとおりです。まず初めに、内閣官房からトイレ問題に関する取組について現状を説明された上で、参加者がインドでの取組み状況について説明を行いました。ここでは、本件に関して、政府のパートナーとなり得る参加者の活動状況のポイントを掲載します。

1. 企業関係者からは、インドでは、ホテルなど一部の業種であることやCSR的な段階にあること。また、インドでの事業はまだであるものの、国内中心に、体重計測機器というハード面だけでなく、食の提供などソフト面の重要性も認識していること、などの活動が話されました。
2. 国連機関からは、衛生、ジェンダーの分野を中心に、コミュニティーベースでの事業を各地で展開しており、衛生問題に関しては、例えば、それを自ら認識することができるように、行動変容も重視しているプロジェクトの展開をしており、ハードも重要であるが、こうしたソフト面も重要であることを強調されました。
3. NGO関係者からは、事例としては、インドの多くの州で衛生プロジェクトを実施している経験があり、事業を推進する人材育成(facilitator)の重要性を認識していること、といったお話がありました。

上記の活動状況に対して、政府関係者から、NGOの役割として、個々の事業の活動に留まらず、関係者との協力の下で実証事業に取り組むことで、地域や国レベルに普及していくことの重要性を述べられました。我々もこうしたご指摘に答えられるように努力していくことが求められていることを短時間ではありましたが、痛感しました。

※会議室風景として、釜石市の花(ハマユリ)と全国からのケニア・スナノミ村への靴の山を掲載します。



2018年01月21日

クレヘンビュール事務局長の記事が掲載

日本リザルツは UNRWA のキャンペーン事務局をしています。今日の読売新聞朝刊にピエール・クレヘンビュール事務局長のインタビュー記事が掲載されていました。事務局長は、1月24日、25日、米国政府が今年1月支払い予定だった UNRWA への拠出の一部を凍結したことを受け、日本へ支援を求めるため緊急来日されます。



2018年01月22日

[ニュース] 谷垣自民党前幹事長が退院

嬉しいニュースが飛び込んできました！

◎自民党 谷垣氏が昨年末に退院(毎日新聞)

自転車事故で入院していた自民党の谷垣禎一前幹事長が昨年末に退院し、東京都内の自宅に戻った。同氏に近い議員によると「通常国会が始まれば、安倍晋三首相や二階俊博幹事長にあいさつに行きたい」と話しているという。谷垣氏は2016年7月、趣味のサイクリング中に転倒して頸髄(けいずい)を損傷。病院で歩

行訓練などのリハビリに取り組んでいた。「後進に道を譲る」と昨年10月の衆院選には立候補せず、衆院議員を引退した。党内で谷垣氏を支持してきた議員グループ(中核20人)は、同氏を「特別顧問」などとして迎える見通しだ。

谷垣先生が入院された際には、日本リザルツスタッフも寄せ書きを作成し、先生にお届けしました。先生の退院を、スタッフ一同嬉しく思っています！

2018年01月23日

リーディング・グループ議長国にジョージア&マクロン仏大統領の来日について

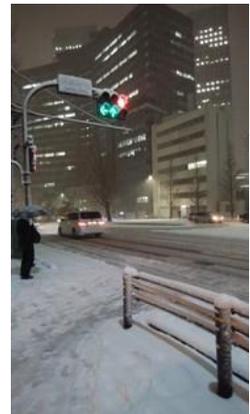
開発のための革新的資金調達に関するリーディング・グループ(常設事務局:フランス)ですが、ややしばらく議長国が決まっていませんでした。ですが、ジョージア政府(昔の旧ソ連邦のグルジアで首都はトビリシ)が2017-2018年の議長国に手を挙げたようです。また、リーディング・グループのWEBサイトに、TISIFF Recommendations - new vision for galvanizing innovative financing for 2030 agenda という勧告書が掲載されています。このnew visionは2015年に上村雄彦横浜市大教授も参加された「国際連帯と革新的資金トビリシフォーラム(TISIFF)」での議論が土台になっているようです。フランス政府は、ジョージア政府のがんばりもあって(?)ようやく革新的資金関係(国際連帯税を含む)の活動に再度馬力をかけるようになってきたと思われます。



ところで、マクロン仏大統領が4月ごろ来日するようですが、国際連帯税発祥国の大統領ですので、ぜひ安倍総理に会った時に国際連帯税について語ってもらいたいと思います。その上で、例えば共同声明に「日本政府が航空券連帯税を導入することに期待する」とか入れてもらえばベストですね。さっそくパリの方に連絡を入れておきます。

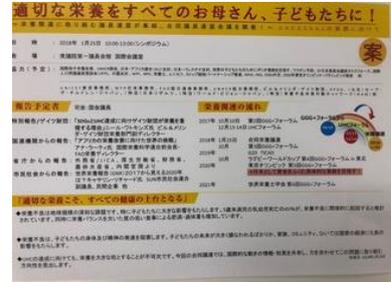
雪景色

昨夜の東京です。



議連合同による栄養シンポジウムのご案内

1月25日、10時～13時まで衆議院第一議員会館国際会議室で開催される議連合同による栄養シンポジウム「適切な栄養をすべてのお母さん、子どもたちに！」の会場と、13時から開かれる交流会の会場の写真です。



2018年01月24日

被災した子どもの養育相談支援事業『支援者研修会・喪失』開催のご報告

1月18日(木)に釜石市保健福祉部子ども課委託事業・被災した子どもの養育相談支援事業『支援者研修会・喪失』を開催いたしました。

《講師》

国立大学法人 岩手大学、三陸復興・地域創生推進機構、特任准教授(臨床心理士)佐々木 誠 氏

《テーマ》

喪失

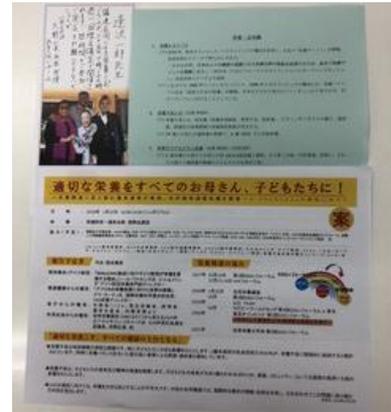
喪失は、『大切な人や生きる支えになるような物事(事柄)を失うこと』です。喪失は、誰にでも起こりえる現象です。喪失を学び、知識を身につけ、喪失を経験した子どもの心を理解しながら、子どもの心にふれることで、喪失を経験した子どもの心を理解した上で、子どもの心に添う支援が可能となります。

死別はトラウマティックな喪失離別、行方不明・認知症等は、曖昧な喪失となります。参加者の中には家族との死別を経験された方やペットを亡くしペットロスを経験した方などがおり、講演内容に共感されている場面が多く見られました。今後、学んだ知識や技術を、釜石の子ども達の支援に活かしていきたいものです。



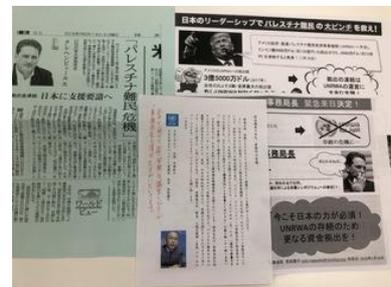
議連合同による栄養シンポジウムのご案内

明日25日に衆議院第一議員会館・国際会議室で開催される、議連合同による栄養シンポジウム「適切な栄養を全てのお母さん、子どもたちに！」に関する資料を、23日に議員の先生方に配布させていただきました。



パレスチナ難民問題への対応

明日25日、衆議院議員第一会館・国際会議室で開催される、議連合同による栄養シンポジウム「適切な栄養を全てのお母さん、子どもたちに！」の第2部「難民と栄養」で報告をされる UNRWA のピエール・クレヘンビュール事務局長の訪日に関する資料を、22日に議員の先生方に配布させていただきました。



2018年01月25日

カンゲミ検査所

より良い結核検査所を建てるため、様々な打合せを行いました。やっと建設が始まります。カンゲミヘルスセンターとの細かな打合せを行い、現地建設会社、現地設計会社と打合せを行い、何とかカウンティ政府へ、建設許可の申請書の提出を行いました。建設許可が2月5日頃に発行されるとの事なので、いよいよスタート出来ます。

左側の門扉とバスを移動して、木をカットして結核検査所を建設します。



こちらへ門扉を移動します。



打合せの待ち時間を利用して、カンゲミ地区の調査(セキュリティ同行)



調査は今後、もう少し落ち着いてから詳しく行います。

2018年01月26日

議連合同による栄養シンポジウム

議連合同による栄養シンポジウムが1月25日に衆議院第一議員会館の国際会議室において開催されました。国際母子栄養改善議員連盟の逢沢一郎副会長、高木美智代厚生労働副大臣の挨拶に始まり、第一部はFAO議員連盟の鈴木馨祐事務局長の司会で「アフリカと栄養」と題してFAOの栄養ディレクター、アナ・ラーティ氏、ビル&メリンダ・ゲイツ財団のニール・ワトキンス氏、ネマット・ハジーボイ氏の基調講演に続き、国際母子栄養改善議員連盟の松本剛明副会長、日本・アフリカ連合(AU)友好議員連盟の三原朝彦会長代行、GF日本委員会議員タスクフォースの古川元久代表幹事、日中友好議員連盟・2020年オリンピック・パラリンピック東京大会実施本部の左藤章監事、岸信夫議員、安藤議員、大河原まさこ議員、吉田統彦議員、北村誠吾議員、神谷昇議員がそれぞれ意見を述べられました。最後に日本栄養士連盟の加藤廣子会長から、日本とアフリカの架け橋となるような栄養士の育成の必要性を痛感するとのお言葉がありました。

第二部は「難民と栄養」と題して国際母子栄養改善議員連盟の木村弥生議員による司会でUNRWA事務局長ピエール・クレヘンビュールからパレスチナの現状報告、清田明宏保健局長から難民の最新健康事情の報告がありました。続いて国際人口問題議員懇談会(JPFP)の生方幸夫議員、日本・パレスチナ友好議員連盟の輿水恵一前衆議院議員、渡嘉敷奈緒美環境副大臣、国際母子栄養改善議員連盟あべ俊子事務局長、日本・パレスチナ友好議員連盟大野元裕幹事長、高橋千鶴子議員、三ツ林裕己議員、城内実議員、UNHCR国会議員連盟逢沢一郎会長によるパネルディスカッションが行われ、第二部を終了しました。

休憩をはさんで第三部は「オリパラに向けて～地球市民として栄養・食・いのちを語ろう」と題してSDGs外交議員連盟の木原誠二事務局長、UNICEF議員連盟羽田雄一郎事務局長の司会により、谷合正明農林水産副大臣の挨拶に始まり、SUN市民社会連合副議長キャサリン・リチャード氏による基調講演に続き、NPO議員連盟の中谷元共同代表、世界の子どもたちのためにポリオ根絶を目指す議員連盟の藤末健三事務局長、JPFPの増子達彦副会長、国際母子栄養改善議員連盟石田正宏事務局次長、UNHCR国会議員連盟猪口邦子事務局長、JPFPの牧山ひろえ議員、2020年東京オリンピック・パラリンピック推進議員連盟の宮内秀樹議員、国際母子栄養改善議員連盟の牧島かれん事務局次長、糸数慶子議員、WFP議員連盟の高野光二郎会長、川田龍平議員、下条みつ議員、渡辺美知太郎議員によるパネルディスカッション、続いて各省庁の取り組

みとして内閣官房から藤本康二健康・医療戦略室次長、外務省から鈴木秀生地球規模課題審議官(大使)、JICA から山田英也上級審議役、厚生労働省から正林督章健康課長、財務省から吉田昭彦国際局開発政策課長、農林水産省から佐藤正大臣官房参事官からそれぞれ報告をいただきました。企業からの取り組みとしては味の素ファンデーションから栗脇啓シニアアドバイザーから発言がありました。最後に国際母子栄養改善議員連盟の山東昭子会長による第三部の閉会の辞がありました。

午後一時から国際母子栄養改善議員連盟今井絵理子事務局次長の司会による交流会が和やかに開かれ、WFP 議員連盟の高野光二郎会長、WFP 議員連盟の渡辺美知太郎事務局長、国際母子栄養改善議員連盟 牧島かれん事務局次長、牧山ひろえ議員が挨拶され、最後に逢沢一郎議員の閉会の辞があり、本日のシンポジウムは終了しました。







2018年01月27日

長坂さんの投稿記事

1月26日付の公明新聞朝刊に長坂さんの投稿記事が掲載されました。



2018年01月28日

UNRWA クレヘンビュール事務局長訪日

日本リザルツは国連パレスチナ難民救済事業機関 (UNRWA) のキャンペーン事務局をしています。1月初旬、衝撃のニュースが飛び込みました。最大のドナーであるアメリカが UNRWA への抛出の一部を凍結したのです。UNRWA、絶体絶命の大ピンチを何とかせねば！ということで、クレヘンビュール事務局長は日本の支援を求めるため、1月24日、25日に日本に来日されました。

来日時には、河野太郎外務大臣に表敬訪問をしたほか、「適切な栄養をすべてのお母さん、子どもたちに！」にも出席されました。

日本記者クラブで緊急の記者会見も行ったほか、報道各社のインタビューも積極的に実施しました。

上智大学でもイベントを実施しました。この様子は、出席したスタッフから詳しく後日お伝えさせていただきますね！クレヘンビュール事務局長の訪日がきっかけで、UNRWA への抛出に日本政府の更なるリーダーシップの発揮を期待したいですね。

2018年01月29日

CHVトレーニング 修了式 2018.1.26

CHVトレーニングの修了式を行いました。一人一人に修了証を手渡していただきました。結核予防についての知識を覚えて、これからの活動に力強く活躍できる仲間が増えました。



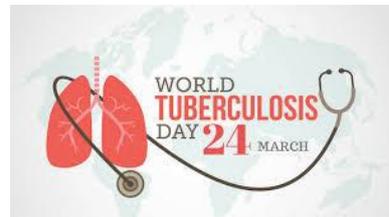
前日の会議後、すぐにケニア入りして CHV トレーニングの修了式に参加した白須代表は、あくまでサポート役に徹するとの事でしたが、最後には、代表の周りには沢山の修了生が集まり、撮影会が始まりました。



2018年01月30日

Wanted: Leaders for a TB-Free World. You can make history. End TB

The Kangemi community, in collaboration with Results Japan, will conduct a number of activities to mark the World TB day on Saturday, March 24, 2018.



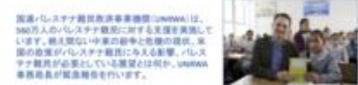
This is one of the main ways of heightening awareness about TB, and encouraging people from all walks of life to test for TB, and seek medication in earnest. The message for this year will be directed to the most affected, or those who are at most risk of contracting the disease. It also follows that the team that shall comprise of the CHVs and the medical personnel of Kangemi, and other health facilities in the area, will join hands to encourage cooperation in handling and treating TB patients. We believe that with the generous support of Ms. Noriko Shirasu, the Executive Director of RJ, so much can be achieved. Last year, with her support, and the cooperation of Riku Shiraiishi, then a staff in Kenya, we reached over 10,000 school children. It is wonderful to note that from that effort, the TB cases among children have reduced by over 95%. Such activities, therefore, have not been in vain. We look forward to a more engaging and fruitful World TB day.

2018年01月31日

UNRWA クレハベンジュール事務局長訪日-上智大学編

日本リザルツは国連パレスチナ難民救済事業機関(UNRWA)のキャンペーン事務局をしています。1月25日、上智大学とUNRWAが共催した「緊急報告:中東の紛争と危機 パレスチナ難民に今必要なもの」に参加しました。

日時: 1月25日(木) 18:00-19:30
 会場: 上智大学四谷キャンパス 2号館17階
 国際会議場(JR,東京メトロ四ツ谷駅徒歩5分)
 使用言語: 英語(同時通訳付)



国連パレスチナ難民救済事業機関(UNRWA)は、500万人以上のパレスチナ難民に対する支援を実施しています。紛争は常に中東の紛争と危機の状況、米国の政策がパレスチナ難民にも影響、パレスチナ難民が必要としている緊急とは何か、UNRWA事務局が緊急報告を行います。

国連パレスチナ難民救済事業機関(UNRWA)とは、1948年の国連平和維持計画(UNSC)の決議に基づいて設立された国際機関です。パレスチナ、レバノン、シリア、ヨルダン、エジプトの国境をまたいで中東の紛争と危機の状況に対する難民、教育、医療、住宅、職業訓練、キャンプインフラ整備と改善、マクロ経済的インフラサービスの提供を支援しています。

主催: 日本リザルツ、上智大学国際協力人材育成センター
 協賛: 上智大学、UNRWA
 問い合わせ先: 上智大学国際協力人材育成センター
 E-mail: rcs@soj.ac.jp
 TEL: 03-6368-4441(平日 9:00-12:00・13:00-17:00)
<http://www.jrsoj.org/en/>

今、アメリカから UNRWA への支援金は大幅に削減され、パレスチナ難民の支援が困難になっています。UNRWA は 700 の学校と 140 の診療所、170 万人の食糧支援をし、3 万人のパレスチナ人を雇用しており、その運営がストップしたら…とことの重要性和緊急性を知りました。最後には、毎年 3 月 11 日に開催されているパレスチナ・ガザ地区と東日本大震災の被災地、そして世界の連帯を示す、色鮮やかな凧が会場を埋め尽くしました。



UNRWA では #尊厳を守る (#DignityIsPriceless) を合言葉に、米政府からの資金拠出の凍結を受けて、自力で資金を世界中の有志や企業、団体等からの寄付を募っています。パレスチナ難民最大の危機です。



体重計がケニアに！

今しがた、日本リザルツスタッフの小鳥がケニアに無事到着しました！小鳥さんが持ってきたお土産の中で一番の目玉はこちらです。日本リザルツがお世話になっているタニタさんの体重計です。ケニア人スタッフのアブタさんは、タニタの体重計に乗るのは初めて。体重だけでなく、体脂肪、筋肉量、そして体内年齢まで測ることができるタニタの体重計に感動しきりでした。



仲の良いケニア事務所。休憩時には藤波さんとアブタさんが腕相撲していました。

結果は、ラグーマンでケニア代表になったこともあるアブタさんが圧勝。藤波さん、雪辱を誓っていました。



ダボス会議: イギリスの影の財務相 金融取引税など「不快なメッセージ」を発する

世界の政治家や大企業経営者などのエリートたちが参加する世界経済フォーラム(通称、ダボス会議)が 1 月 26 日に終了しました。このフォーラムは「世界の課題の解決を目指す会議として世界に幅広く知られ」(1 月 22 日付日経新聞)ていると言われていますが、果たしてそうでしょうか? 例えば、フォーラムでは毎年のように「経済格差」をグローバルリスクとして挙げています。しかし、「…ある元中銀当局者が指摘したように、『われわれは以前、格差を是正しようとしたが、うまく行かなかった』」(1 月 30 日付ロイター通信)と報道されているように、行き過ぎたグローバル化がますます格差を拡大し、そのことが世界中でこれまでにない排外主義と分断され



た社会を生み出しています。このダボス会議に先立ち、国際 NGO のオックスファムは毎年格差問題に対する報告書を公表していますが(下記報道を参照)、この格差拡大の進行をくつきりと浮かび上がらせています。

【朝日新聞】世界の富の8割、1%の富裕層独占 NGO報告、格差対策を呼びかけ

国際NGO「オックスファム」は22日、世界で1年間に生み出された富(保有資産の増加分)のうち82%を、世界で最も豊かな上位1%が独占し、経済的に恵まれない下から半分(37億人)は財産が増えなかったとする報告書を発表した。資産の偏在が格差拡大を招いているとして、世界の指導者に対策を呼びかけた。

オックスファムは、スイス・ダボスで23日に始まる世界経済フォーラム年次総会を前に、世界の指導者にタックスヘイブン(租税回避地)への対策や富裕層への課税強化などの取り組みを求めた。

ところで、このダボス会議にイギリス労働党の影の財務相であるジョン・マクドネル(John McDonnell)も招待され、彼は「グローバルエリートにとって不快なメッセージを発した」ようです。日本ではまったく報道されていませんが、その「不快なメッセージ」を紹介します。

【bloomberg】Labour Official Tells Davos, ‘There’s an Anger Building Out There’

労働党は公的にダボスを語る、「そこには怒りが高まっている」

“(大意)ここダボスでは経済成長の回復が称賛され、エリートたちは陶醉感に浸っているようだが、世界の一般大衆はその恩恵に浴することなく、「雪崩のような不満と怒り」が溜まっている。「…人々が成長を共有し、富と利益を分かち合うという根本的な新しい課題」に取り組まなければならない”として、以下の 5 項目をマクドネルは挙げています。

- ・労働者に「実際の生活賃金」を支払い、会社の利益を労働者とシェアすること
- ・労働組合を認知し労働者を会社役員に任命すること
- ・会計事務所が税の回避に取り組むのではなく、納税を奨励するための新しい「ヒポクラテスの誓い」を行うこと
- ・富裕層と権力者は所得税申告を公表すること
- ・公的サービスと国際開発プログラムに資金を提供するために金融取引に対する「ロビン・フッド」税を実施すること

- ・Paying workers a “real living wage” and allowing them to share in the profits of the companies they work for
- ・Recognizing trade unions and appointing workers to company boards
- ・A new “Hippocratic oath” for accountancy firms to tackle tax avoidance rather than encourage it
- ・The rich and those in power should publish their income tax returns
- ・A “Robin Hood” tax on financial transactions that would be used to fund public services and international development programs

ACTION リーダーシップ会議

ACTION リーダーシップ・グループ会議がポルトガル、リスボン郊外のホテルで1/29～2/2の間、開催され、白須代表も参加しました。



エチオピア滞在

1月24日に日本を発ち、25日から31日までエチオピアに滞在していました。たった1週間滞在でしたが、その印象をお伝えします。エチオピアの街は中国の投資が多く入っているように思えました。滞在先のホテルにも中国の方がビジネスで多くいらしていました。日本企業はまだ少ないとのこと、今後の進出が期待されます。空港から10分走るとビルは皆無に…。エチオピアは、依然として農業(酪農)メインの国で経済発展が課題だそうです。特に農村部の貧困問題が深刻だとのこと。干ばつが一旦起こると国内避難民が多く発生し、政府予算だけでは対処できないこともあるそうです。また、南スーダンなど国外からの難民の流入も課題になっています。

彼らが笑顔で健やかに暮らせるように、日本からも何かできることはないか、模索したいと思いました。課題もありますが、総じていいですと今回の訪問を通じ、エチオピアのことがますます好きになりました。みなさん仕事熱心で、時間厳守で物事が進んでいきました。また、至る所でみなさんの優しさ、心の温かさを感じました。何より今回の訪問は、多くの人とのご縁に恵まれました。どんどん人のつながりが出来、活動の輪が広がっていくのがわかりました。皆さまのご協力に支えられていることを改めて実感しました。本当にありがとうございます！

日本リザルツの活動もよりワールドワイドになっていきますので、楽しみにして下さいね。



【ゴム鉄砲職人】

相談室の窓は道路に面していますので、下校途中の小学生とコミュニケーションする事もしばしば。ほとんどは、家にランドセルを置いてから、相談室に遊びに来ます。そんなある日、道路からジーッと相談室を見つめている男の子がいました。小学1~2年生くらいの初めて見る男の子です。声を掛けると、『ゴム鉄砲を作りに来た』と言います。それから、相談室前の椅子に座って、リュックサックから割箸や輪ゴム、ハサミを取り出していました。私が覗き込むと、自慢げに材料や道具の説明をしてくれます。



手慣れた手つきではあるけれど、どこかおぼつかない様子で、10分ほどで組み上がりました。

試射してみると、4~5m先の的に命中するほどです。

男の子は、自信満々の笑みを浮かべています。続けて、二連射できるようにカスタマイズ。見事な出来栄です。



写真の承諾を得ている最中に、男の子は帰り支度を整え、颯爽と帰宅しました。どうやら、わざわざゴム鉄砲作りを見せに来てくれたようです。カッコいいゴム鉄砲職人さんとの素敵な出会いでした。

